



取締役社長  
山本 茂生  
Shigeo Yamamoto

## 第2次中期経営計画のスタートにあたって 山洋電気にとってだけでなく...

1994年4月から実施してきました山洋電気の第1次中期計画は、今年の3月に終了しました。

部門や製品によってのばらつきはありましたが、売上高に関しては、会社全体として計画を達成できました。

さて、私たちがとりまく日本の経済は、もう7年間にもわたって不況が続いており、いまだに回復の兆しも見えません。たびたび発表される景気回復策は、ことごとく的外しております。

このような時に、景気をあてにした経営や、不景気を理由にして業績が悪いことの言い訳にするような姿勢は、全くのナンセンスであります。

ビジネスを外的な要因に頼らずに、社会の変化とその方向をよく見て、「自分たちが何をしたいか」「何ができるか」ということを考えて実施していくことが、今、何よりも大事なことではないでしょうか。

では、この数年で世の中は何が変わったのでしょうか。

まずは、ひとことで申しますと、オープン化です。規制の緩和も、市場の開放も、情報の開示も、システムのオープン化も、全てこの流れです。この流れは、より公平であり、より経済的であり、また何よりも人々が望んでいた方向であるからこそ、加速された動きとなってきたのです。

もうひとつの変化は、人類が今何をすべきかという使命感が急速に高まってきたことです。地球環境の保全を目指して、温暖化防止やオゾン層の保護、工業製品のリサイクルや産業廃棄物の削減などのいろいろな取り組みが実施され始めました。

目を内側に向けてみますと、山洋電気にはすばらしい企業理念があります。「私たち山洋電気は、すべての人々の幸せをめざし、人々とともに夢を実現します。」ということばは、おごりのない謙虚な姿勢を保ちつつ、人間の力の無限の可能性を信じていこうという勇気を与えてくれます。私たちは、自信を持ってその実現に挑戦できるのです。

山洋電気は、社会の変化とその方向をよく見て、「自分たちが何をしたいか」「何ができるか」ということを考え、企業理念を実現していく、これを第2次中期経営計画の最も大事な基本姿勢としています。

さて、この計画では、山洋電気が力を発揮したい事業領域として、次の6つの分野を設定いたしました。

- Information 情報や通信の分野
- Industry 産業機器の分野
- Energy エネルギー変換の分野
- Medical 医療機器の分野
- Environment 環境保護の分野
- Home ホームオートメーションの分野

これらの全ての事業領域で、山洋電気は、顧客や市場のニーズに応えるだけでなく、積極的にシーズの発見をすることによって、人間の幸せのために役立てられる技術を開発し、広く地歩を築き発展していきたいと願っております。

山洋電気の第2次中期経営計画への取り組みが、山洋電気にとってだけでなく、広く社会の発展の役に立つことができれば、どんなにうれしいことでしょう。

---